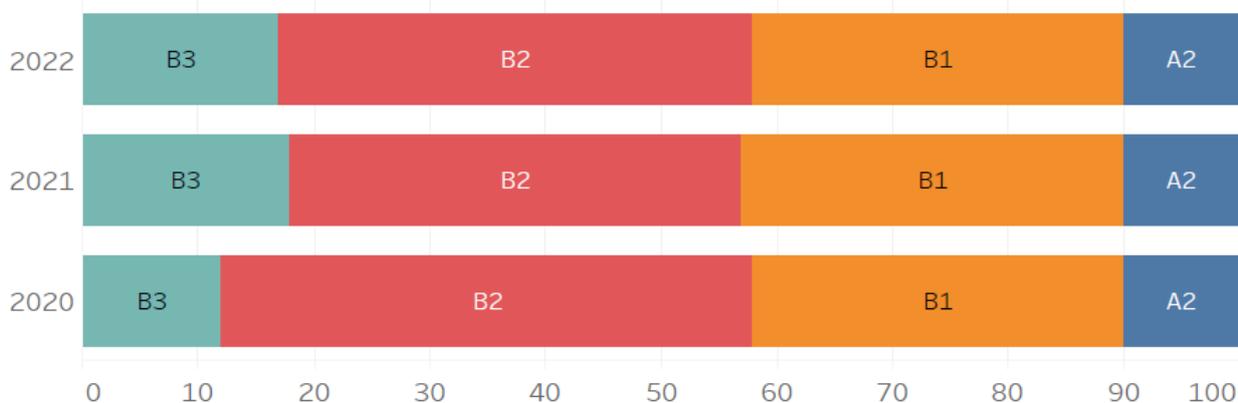
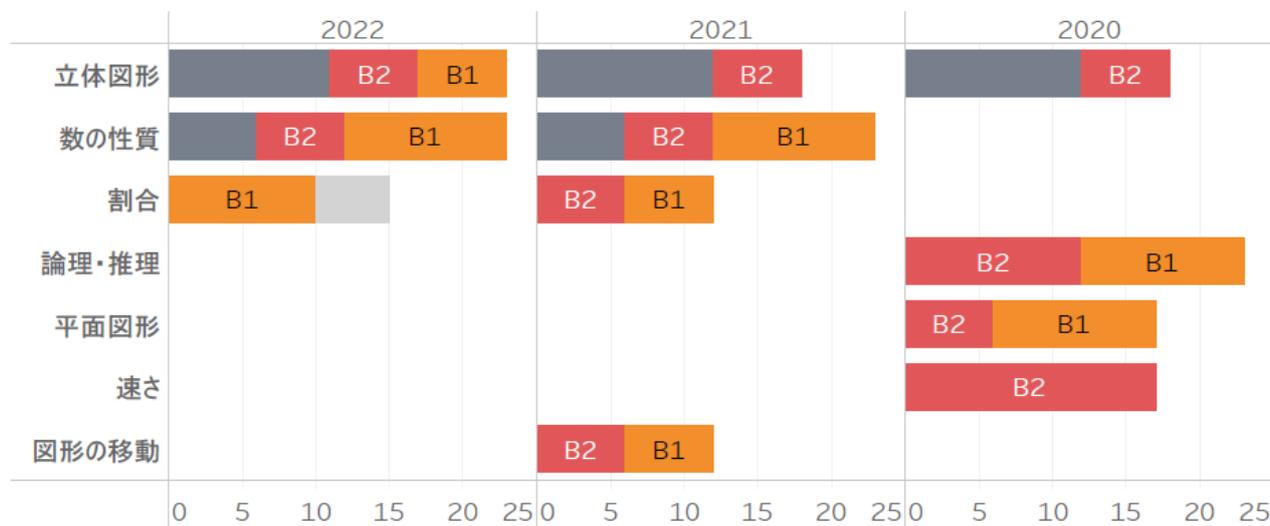


2022年 豊島岡女子 算数（第1回）

各年の思考コード別出題割合は次のようになります。2020年から問題難度に大きな変化はなく、B1、B2が100点満点のおよそ80%を占めています。また、総設問数も18問と変わりありません。



B3の問題は出題されていますが、得点割合のおよそ10%程です。これらの問題が得点できれば、ライバルに大きな差を付けることができます。しかし、問題の難度が高いため、試験時間50分を考えると、完答するのが難しい場合もあります。それよりは、B1の問題を確実に得点して、B2の問題をどれだけ取れるかに意識を向ける方が重要です。そこで、B1、B2に焦点を当て、配点割合が高い分野上位3つ（得点割合が同じ場合は4つ）に注目して見ましょう。すると、次のようになります。赤はB2、オレンジはB1、濃い灰色はB3、薄い灰色はA2を表しています。



「立体図形」は、例年大問6で出題されていますが、B3の割合が高く、正答率の低い問題が並びます。実際の入試では、この問題に時間をかけるよりは、B1、B2の問題（2022年なら、大問6(1)、(2)にあたります）に取り組み、得点できる方が、他のライバルとの差が開きにくいと言えます。同様に、「数の性質」についても、B1、B2をどれだけ得点できるかが重要となります（2022年なら、大問1(2)、大問5(1)、(2)にあたります）。また、2022年の「割合」はB1、A2となるため（大問1(3)、大問2(1)、(2)にあたります）、落とせない問題となります。

入試では、限られた時間を有効に使うため、問題の難度や、解答までにかかる時間を想定して、戦略的に取り組んでいく必要があります。日頃の学びでも意識できるとよいでしょう。